

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研Advance

②施設・事業所情報

名称：	三田かしのみ保育園	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	園長 森山 順子	定員（利用人数）：	130（134）名	
所在地：	214-0034 神奈川県川崎市多摩区三田1-18-3			
TEL：	044-932-2111	ホームページ：	https://www.mitakashino.mi.jp/	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日	2014年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人かしのみ福祉会			
職員数	常勤職員：	31名	非常勤職員：	19名
専門職員	保育士	39名	栄養士	2名
	看護師	3名	調理員	4名
	事務員	1名	用務員	1名
施設・設備の概要	居室数	保育室10室、調理室、事務室、保健室、談話室、更衣室、ホール	設備等	園庭、屋上、1・2階デッキテラス、エレベーター、駐車場、駐輪場、シャワー室、教材室、トイレ、書庫、ホール

③理念・基本方針

<保育理念>

多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的とします。

<保育方針>

- ・子どもの一日のリズムを大切に考え、健康・安全など生活に必要な基本的な生活習慣を養う。
- ・保護者、保育者との安定した関係を築き、子どもの情緒の安定を図る。
- ・友達とのかかわりの中で、思いやりや憧れの気持ちを育てていく。
- ・一人ひとりの子どもの良いところに目を向け、認めながら伸ばしていく保育をすすめる。

④施設・事業所の特徴的な取組

園は、閑静な住宅街にあり、3階建ての園舎で、広々とした園庭を有しています。
園庭には「メルヘンタワー」(大型遊具)や砂場があるほか、田んぼや畑のスペースがあり、お米や野菜の栽培を食育活動の中で実践しています。2階のテラスもボール遊びや三輪車などで体を動かして遊べる広さがあり、同じく2階のグリーンテラスにある手作りのピオトープでは、メダカの飼育を行っています。3階のホールは、日常的な遊びや活動に使用しているほか、運動会や発表会、卒園式などを行っています。4、5歳児クラスの外部の専門講師による「体育」の活動も園庭やホールを使って行っています。1階の「絵本の森」には、子どもの目線で様々な種類の絵本が並び、小さな空間のスペースにあるベンチに座って、じっくりと絵本を楽しめるようになっています。
保護者に対しては、保育参観を通して、園での子どもの様子を見てもらっているほか、活動の様子をドキュメンテーションにしてクラスごとに連絡用アプリで配信して子どもの成長を共有しています。
法人には、子どもの発達に関する助言や相談を行う「保育アドバイザー」がおり、毎月の巡回相談で助言を受け、保育の実践に生かせるようにしています。
地域に向けた子育て支援の取り組みとして、一時保育や育児相談、園庭開放を実施しており、暑い時期は、園庭ではなくホールを開放しています。また、未就学児の親子を対象にして、多摩区の公私立認可保育園が主催している「ママとあそぼうパパもね!」に参画し、職員が出張保育を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2025年4月21日 (契約日) ~ 2025年11月25日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	2 回 (2020 年度)

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆系の活動を通して、職員が主体的に園運営に関わる仕組みを構築しています

園では「安全係」「図書係」「防災係」「保健・衛生係」「地域支援係」「給食・食育係」を設置して、担当職員を配置し、安全な環境づくりや地域の子育て支援の強化、保育活動のさらなる充実に向けて、取り組みを進めています。各係では、適宜会議を実施して、活動内容の方向性や課題の改善策などについて職員間で意見交換を行っています。例えば「地域支援係」では、子育てに悩んでいる地域の保護者のための「かかりつけ保育園」になることや「選ばれる保育園」となるために、園の存在意義や役割を地域に伝えるための方法を検討しています。このように、チームによる系の活動を通して、職員が主体的に園運営に関わる仕組みを構築しています。

◆保育実践の振り返りを生かして、さらなる保育の質の向上を目指しています

毎月の乳児会議と幼児会議では、多摩区の「振り返りリスト」を用いて、子どもが遊びたくなる環境づくり、子どもの主体性を尊重した関わり、プライバシーを大切にされた言動などについて、各自の保育実践やクラス全体の保育のあり方を振り返り、互いの気づきを伝え合っています。また、職員個々の自己評価を3月に実施し、園長との面談を行って、頑張っていることや課題などを確認しています。年度初めには、職員一人ひとりが、年間の目標とその目標を達成するための取り組み内容、受講したい研修などを設定しています。このように、保育実践の振り返りを通して、個々の目標を具体的に設定し、意欲的に保育の質の向上を目指せるようにしています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価の受審にあたり、全職員で園の運営全般について振り返り、客観的に見つめる貴重な機会となりました。

訪問調査やフィードバックでは、保育内容だけでなく、マニュアルの整備、地域との連携、職員間の信頼関係などについてお褒めの言葉を頂き自信に繋がりました。同時に課題点もいくつか明らかになりました。今後は職員間で話し合いながら、中・長期計画の策定、園の自己評価、その他ご指摘のあった事項を計画的に進めていきます。時代のニーズに合わせて対応していく必要性も感じています。

保護者アンケートでは、多数の方から貴重なご意見、励ましのお言葉を頂きました。その一つ一つを真摯に受け止め、共有していきます。あらためて感謝申し上げます。

これからも子どもを真ん中にし、保護者との信頼関係を大切にしながら、安心、安全な、笑顔のあふれる保育園を目指して努力していきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり